

つながりの中でくらす
望まれた人として生きる
自分らしく生きていく



2005年2月発行

No. 3

〒535-0022 大阪市旭区新森 6-4-15-1104 TEL/FAX 06-6953-2655 E-mail houpu@river.sannet.ne.jp

講演会

「障害のある子どもと通じ合う関係を作るために」

坂井 聡さん(香川大学教育学部付属養護学校)

2005年1月15日(土)

城北市民学習センター

主催：旭区社会福祉協議会、NPO法人地域生活サポートネット「ほうぷ」

障害のある子どもたちと、地域で共に生活していくためには、互いのコミュニケーションの構築が重要です。しかし、「どうしたらうまく伝わるのだろう」「どうしてわかってくれないのだろう」という悩みを持っていたり、かかわる前からあきらめたり、子どもの想いを誤って受け取ったりしていないでしょうか?「コミュニケーションのための10のアイディア」の著者で、香川大学教育学部付属養護学校の教諭として、長年子どもたちと共にすごしてこられた坂井聡さんをお招きして、「コミュニケーションを支援する視点」から、ご講演いただきました。

坂井さんは、「目標は社会的自立」という立場に立ち、子どもにどう伝わっているのか、困っていることが何なのか、困っているのは誰なのかと、参加者に問いかけ、やりとりの中から気づかせてくださいました。「ああ、そうか」「そうだったのか」と笑いあり、溜息ありの講演会でした。わかりやすく、実践を通して話されるうちに、2時間の講演もあっという間に過ぎ、もっと聴きたい余韻を残して終わりました。

○参加者の感想より○

- わかってはいるけれど、ついつい私の考えを押し付けて話を進めてしまいがちになる自分をもう一度初心にかえらせてもらいました。重度の障害をもつ子どもとコミュニケーションをとって、お互いに分かり合えた時の喜びを思い出しながら、これからも子どもたちとかかわれたらいいと思います。
- 障害があるからわからないのではなくて、障害のあるなしに関係なく、わからないというこ

とは誰でも同じ事だとわかりました。子どものいろいろな表情を見て、どう考えているのかなとこちら側から探っていこうと思います。

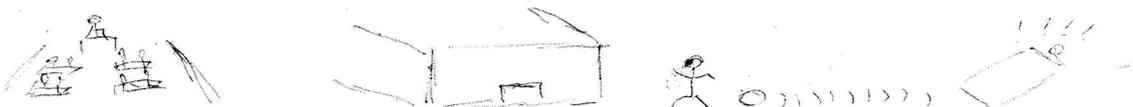
- 具体的にたくさんお話していただき、すぐにも実行すべきと痛切に思いました。世間一般障害者にレッテルを貼っていることが多分にあります。立場にたって考えること、大いに大切わかりました。
- とても勉強になりました。自分なりに取り組んでいるつもりでしたが、なかなか成果が出ず困っていました。今日のお話を参考に、もっと子どもの視点にたった支援を考えていこうと思いました。
- 自分の子どもが小学校に入る前にお話を聞いていれば良かったと思いました。保育士、教師に聞いて欲しい講演だと思います。今日見た(画面で)子どもたちが、どう成長していくのか見てみたいです。
- とても楽しく勉強になりました。息子は、表出言語の大分出てきた自閉症ですが、根本的なところをもう一度考えられました。
- 本人を取り巻く状況として、周りの人が、さまざまな方向より関わっていくこと。そして、その中でいろんな工夫やいろんな角度からの視点が大切かなと思いました。



講演の後、「コミュニケーション機器をさわってみよう」ということで、石原洋さん(株式会社アクセスインターナショナル)、松井由紀子さん(パシフィックサプライ株式会社)から、様々なコミュニケーション機器の紹介がありました。

○実際にさわってみて○

- 機器をどれだけ知って、提供できるかが大事と思った。
- ボードメーカーは、良いと思ったが、高価すぎて手が出ません。49,800円→12,000円くらいだと買えるかも。学校のカリキュラムに「？」なので、家庭で教材をつくりたいと前々から思っていました。
- 我が家の場合は、時期的に無理かな。でもいろんなことができる喜びはあります。



参加者内訳

障害児の家族 27 ・ 教員 3 ・ ボランティア 4 ・ 学生 1 ・ ホームヘルパー ・ ガイドヘルパー ・ コーディネーターなど介護職 4 ・ 障害児者の相談担当 2 ・ その他 (いきいき指導員 1) (以上アンケート回答から) 参加者数 51 名

○講演会のあとで○

★坂井聡さんからのメール

「とても熱心な人たちがたくさんいて、すばらしい会だと思いました。

ではでは、パワフルな皆様によろしく……。」

★ほうぶのスタッフと坂井聡さんとのメール交換から

ほうぶ「最近、疑問に思っていることがあり、今回の講座でも感じたことがあります。

視覚化についてです。娘も時間割やカレンダーなどで使っています。でも、時として、それが、子どもに「させよう」という大人の都合(思惑)になってしまい、子どもに「指示する」ことになって、子どもの自発性を奪ってしまうことはないのだろうかということ。障害のない子どもでも、最近、スケジュールがいっぱいで、空き時間ができた時、何をしたらいいのかわからず、指示待ち状態になる子どもがいるように感じています。技術も使い方次第ということかなと自分なりに考えていますが、どうなのでしょう。」

坂井氏「おっしゃるとおり、行動管理になってはいけません。親の都合や先生の都合ではダメなのです。それを使ってやり取りするという発想を忘れてはならないと思っております。スケジュールを使って交渉したりするということですね。だから、表出も育てなければならぬのです。自分で納得して決めて動くことができる子ども……。そんな子どもが増えればいいのになと思います。」

ボランティア講座 保育ボランティアステップアップ講座

「障害のある子どもたちとともに」

2004年 11/18 11/27 12/4 12/11 12/18

会場：大阪市立両国入権文化センター

主催：大阪市立両国青少年会館

参加者 のべ104人！

協力：保育ボランティア「ぷちトマト」 NPO法人地域生活サポートネット「ほうぶ」

11/18(木) 「障害のある子ども達とともに過ごすということ」

ふりかえりから

NPO 法人地域生活サポートネットほうぶ 向井裕子

たんぽぽ倶楽部 岡 裕子 疋田 久子

- ・ 障害のある子どものお母さんのお話、この講座ではじめて聞くことができました。地域のかかわりの大切さが印象に残りました。子育てをすることで社会的孤立をしているお母さんたちが増えてきている気がします。地域との助け合いや仲間作りの大切さがわかりました。
- ・ 障害のある・ないではなく、そのことができる・できないの違い、ゆっくり楽しむ・工夫してすることを自分自身も楽しめることをみつけている向井さん・岡さん・疋田さんがとても素敵に見え、自分でもできるじゃないかと、すごいことは、興味のあること・やってみたくことになりました。

・自立と孤立と依存の話はわかりやすかったと思います。助けてもらいたいときに助けてと言える、甘えられる人が本当に自立していると思います。それができる人は今、私も含めてあまりいないように感じます。学校教育・家庭教育の結果でしょう。これからの子には、本当にそんな大人になっていけるよう、大人の側がもっともっと気づいていかなければと思います。

11/27(土) 「脳障害による発達障害とその支援」

中野こども病院医局長(小児神経専門医) 村上貴孝

脳障害の原因と、そのことによる発達障害にはどのようなものがあるか、そして、一人ひとりの子どもたちに実際に必要な支援とは。医療的ケアから、遊び、家族の心のケアまで、幅広くお話しして下さいました。

12/4(土) 「遊びの実際Ⅰ 視覚・聴覚に障害のある子どもたち」

大阪市立盲学校幼稚部教諭 今井理知子

大阪市立聾学校幼稚部教諭 吉田ひろ子、山本美千代

全盲のこどもは「見ること」はできなくても、他の感覚をフル稼働してたくさんの情報を持っています。一緒に過ごすときは、まず安心できる空間を作ることが大切です。そして一緒に楽しめる遊びの工夫を、現場で取り組まれている内容を盛り込んで教えていただきました。

12/11(土) 「介助の実際 肢体不自由の子どもたち」

大阪市更正療育センター 作業療法士 嶋谷和之

肢体不自由の子どもたちは、動けないことから「できない」と思われがちですが、子どもたちなりに外に向かって反応しようとしています。子ども自身の動きを妨げず、動きや遊びを子どもが感じるようにすることがポイントだということです。生活の中での介助のポイントを具体的に教えていただきました。

12/18(土) 「遊びの実際Ⅱ 知的障害の子どもたち」

生野こどもの家園長

細川速見

ふりかえりから

NPO 法人地域生活サポートネットほうぶ 向井裕子

- ・障害のある子どもにどのように接していったらよいか不安がありましたが、失敗しながらもかまえないで、楽しみながら接していきたいと思います。
- ・障害は「不幸」ではなく「不便」であると言われた先生の言葉が心に残っています。この講座を受けて、自分の心の中に、障害を持つことは「不幸」だとどこかで思っていたことに気がつきました。「不便」なら、工夫や支援があれば同じように生活していけること、みんな同じように感じ、楽しめること、それに少しでも力になればなと思いました。

★★ 講座中、学生さんが保育ボランティアをしてくれました ★★

感想から 「2回目というのもあって、前回参加させてもらったときよりも、あまり緊張せずにできました。とまどうこともなく、私自身も一緒に楽しめました。子どもたちが楽しそうにしていると、私までうれしくなっていました。」

地域支援活動

子育て支援

平成15年に旭区の子育てサークルのネットワーク「きしゃぽっぽ」を立ち上げ、支援活動を行なってきました。昨年は、日本財団の助成金により、子育て講座を2回開催しました。昨年11月の城北市民学習センターオータムギャザリングでは、「きしゃぽっぽ」の紹介パネルを展示しました。広報「あさひ」11月号では、子育て支援特集が生まれ、「きしゃぽっぽ」の紹介記事も載りました。小さな子どもを育てながら活動するパワーあふれるママ達に乾杯です。

現在、同じく日本財団の助成金で、旭区子育てマップを作成中です。「きしゃぽっぽ」のメンバー達が、地域の情報を集め、編集し、版下を作成しています。どんな子育て支援の情報誌ができてあがるか、みなさん楽しみに！



障害児 & 不登校児支援

「地域生活サポートネットほうぷ」は、設立以前から、旭区において、さまざまな当事者会の立ち上げやネットワークづくりに取り組んできました。中でも、障害児の保護者や親の会やサークルとの交流や相談などを継続してきました。平成16年当初からは、旭区の不登校児の親の会「サークル虹」と連携し、トモノス旭で毎月開催している定例会にも参加してきました。

これらの活動から、生活や学習に配慮の必要な子どもの保護者達からの声を聴く機会が多く、保護者達の抱えるストレスの大きさや、地域における支援の必要性を感じてきました。学校や家庭、それぞれの対応だけで解決できることではなく、地域における支援や、学校と家庭と地域との連携が必要であり、地域の課題があると考えています。

不登校児と障害児との間に、一見接点はないように思われますが、保護者の「価値観の転換」、あるいは、教育権や、児童の「生きる力」や「人の中に存在する力」を育てることなどは、共通するところがあります。そのため、不登校児とその保護者達と、障害者や障害児とその保護者達との交流により、相互のエンパワメント効果が期待できると考えています。

アンケート調査を実施

昨年11月末から12月に、旭区内の小学校の養護学級在籍児の保護者に対し、地域支援のニーズ調査のためのアンケートを配布しました。各小学校の校長先生にもアンケート実施をお知らせし、80通のアンケートを配布して、無記名・郵送にて回収しました。その結果、46通の回答がありました。現在、集計中です。集計をしながら、ボランティアやヘルパーと関わっている家庭が少ないということ、親達が多く不安を抱えながらも学校以外でのつながりを上手に作れていないことを感じています。報告書を作成し、各小学校とアンケート調査をお願いした家庭に配布します。集計結果を今後の活動に役立てていきます。

「旭区不登校ねっと」設立へ

不登校の問題に関しては、子ども達や家族に対して、地域で何ができるのかを考え、取り組んでいくために、区内で不登校の課題に取り組んでいる施設やグループで集まりました。

日時・場所： 12月10日（金）19時～ 旭区在宅サービスセンター

参加者： サークル虹（不登校の親の会）代表・生江青少年会館 事業担当者、相談員、コーディネートをこなしているNPO法人スタッフ（今年度よりほっとスペース事業を始めた）・両国青少年会館 事業担当者（今年度ふれあいルーム事業を実施。来年度よりほっとスペース事業開始予定）・旭区社会福祉協議会ボランティアコーディネーター・地域生活サポートネットほうぶ

各施設やグループの現在の活動のようすや担当者の思いなどを話し合いました。みなさんの熱意とパワーを感じる会でした。今後、定例的に話し合いを持ち、情報交換や意見交換、勉強会を重ねて、不登校の課題に取り組んでいくことになりました。

おもちゃ箱

鳥海直美

ホームヘルプ実践に従事していた頃にも、その後に社会福祉教育に従事してからも、幾人かの方の「死」に直面しました。職業人として無力さを感じることに以前に、ひとりの人間としてその死をどのように受け容れ、意味づけるかがわからないでいました。そのようなときに「のんちゃん便り」を読みました。そして、死の意味を考えることは、転じて、生きる意味や“いのち”のありようを考えること、というメッセージをのんちゃん存在そのものから受け取りました。のんちゃんから不覚にも問われてしまったのです。「パソコンの前のあなたは自分の“いのち”を生きているの？」と。

数年前、奈良の専門学校に向かう電車の車中で障害者福祉に関する書籍を開いていると、隣に座った女性の方から声をかけられました。次の停車駅までに聴かせていただいた話の内容は、障害をもつ子どもの遊び相手を探してほしいというものでした。後日、「ぼくと遊んでくれるお兄さんを探しています！」というボランティア募集のポスターが届き、それには思春期を迎えた息子さんの遊び相手になってやれないという母親としての想いを綴った手紙が添えられていました。車中の隣人から不用意にも問われてしまったのです。「障害をもつ子どもが学生の力を必要としているのにあなたは何をしているの？」と。

このような体験から、社会福祉教育において障害を通して「いのち」を考えること、障害児（者）と学生の出会いの場をつくることという問題意識を抱くようになり、それらに柔らかく応えてくれたのがのんちゃん母親であるところの向井さんでした。向井さんには、「いのち」を考える時間と、障害児と学生が出会う場とを連動させながら提供いただいています。しかしながら、その後も私は問われるばかりです。非障害者中心の社会にあって「非障害者」という範疇に仕分けされる私は、障害をもつ者やその家族から常に問われ続ける立場にあり、社会のありようが変わらない限りはその立場から逃れられないにちがひありません。そのような問いに駆り立てられるようにして“ほうぶ”にかかわっています。(了)



リレーエッセイ

グループ紹介

脳血管障害者 あさひの会

脳血管疾患の後遺症を抱える当事者の会です。
同じ体験をした者として、思いを分かち合い、共通の問題を語り合い、
情報交換をしませんか。

1人で、悩んだり、がんばったりしていらっしやいませんか？
仲間と出会い、語り合いたい方、ご参加ください。
仲間の中でホッできる場づくりをしたいと思っておりますので、
言葉が不自由な方もどうぞおいでください。
ご家族の方も一緒にいらしてください。
月に1回、集まります。ご参加をお待ちしております。

車椅子を使用されている方、言語障害をお持ちの方、仕事を続けて
おられる方、いろんな方々がそれぞれのペースで参加されています。

対 象 脳梗塞や脳内出血などの脳血管疾患により障害を受けられた方

定例会 日 時 毎月 第2月曜日 午後2時～4時
(予約は必要ありませんが、会場の都合により変更になる場合がありますので、お問い合わせください)
場 所 旭区在宅サービスセンター
住所 〒535-0031 大阪市旭区高殿6丁目16-1
電話 06-6957-2200 (代)
城北市民学習センター(旭屋内プール)の北東隣です。

お問い合わせ先 電話 06-6953-2655
(NPO 法人 地域生活サポートネットほうぶ気付)

会員さんの声から

『6年前に脳内出血で倒れ、左半身麻痺となり、現在も通院にてリハビリ治療中です。

3年前にほうぶのメンバーの方々と共に、あさひの会を立ち上げ、山浦さんによるピアカウンセリング(コウ・カウンセリング)や、同じ病で悩んでいる人たちとの会話を通じ、仲間達から多くの勇気をもらい、力強く生きていけるようになりました。』(H. I)
『1回目から参加しています。

毎回、皆さんに会って元気をもらっています。』(T)

『H15年12月、脳梗塞を発病しました。あさひの会に入って1年余りが経ちました。入会后、気楽に陽気にやっています。』(ア)

< 10～1月活動報告 >

(区在) : 旭区在宅サービスセンター

10月 7日、14日、21日 「ふれあいボランティア講座」

主催 : 旭区社協・おとしよりすこやかセンター・ほうぶ

13日 草の根ネットワークねっこ定例会 (区在)

18日 旭区子育てネットワーク「きしゃぽっぽ」定例会 (区在)

脳血管障害当事者会「あさひの会」定例会 (区在)

- 24日 第6回音楽広場の開催（城北市民学習センター）
- 26日 不登校支援に関する打合せ（NPO 法人淡路プラッツ）
- 27日 草の根ネットワークねっこ交流会（鶴見緑地バーベキュー広場）
- 11月 1日 不登校支援に関する打合せ（旭区社協・サークル虹）
- 8日 脳血管障害当事者会「あさひの会」定例会（区在）
- 10日 千里金蘭大学人間社会学課 「地域福祉基礎」（ゲストスピーカー）
- 18日 保育ボランティアステップアップ講座「障害のある子ども達とともに」
主催 大阪市立両国青少年会館 講師協力
- 21日 第7回音楽広場の開催（城北市民学習センター）
- 29日 旭区子育てネットワーク「きしゃぽっぽ」定例会（区在）
- 24日 草の根ネットワークねっこ定例会（区在）
- 27日 保育ボランティアステップアップ講座「障害のある子ども達とともに」
主催 大阪市立両国青少年会館 講座中の保育ボランティア協力
- 29日 旭区子育てネットワーク「きしゃぽっぽ」定例会（区在）
- 11月～12月 子育て支援マップ調査（「きしゃぽっぽ」が協力）
- 11月下旬 旭区内小学校養護学級在籍児保護者へのアンケート用紙配布
- 12月 3日 子育ていろいろ相談センター 保育ボランティア研修会
保育ボランティアへの障害児との関りについての研修
- 6日 旭区市立小学校校長会へ書面によるアンケート実施のお知らせ
（ほうぶのリーフレット、挨拶文、アンケート依頼のチラシを配布）
- 8日 子育て支援マップ作成打合せ（旭子育て支援センター）
- 10日 旭区不登校ねっと設立の打合せ（区在）
（サークル虹、旭区社会福祉協議会、両国・生江の両青少年会館）
- 11日 保育ボランティアステップアップ講座「障害のある子ども達とともに」
主催 大阪市立両国青少年会館 保育ボランティアコーディネート協力
- 17日 旭区アクションプラン策定委員会傍聴
- 18日 保育ボランティアステップアップ講座「障害のある子ども達とともに」
主催 大阪市立両国青少年会館 講師協力
- 13日 脳血管障害当事者会「あさひの会」定例会（区在）
- 26日 第8回音楽広場の開催（城北市民学習センター）
- 1月 12日 子育て支援マップ作成打合せ（旭子育て支援センター）
- 15日 「障害のある子どもと通じ合う関係をつくるために
ーコミュニケーションを支援する視点ー」 坂井聡氏講演会
（城北市民学習センター）
- 16日 第9回音楽広場の開催（城北市民学習センター）
- 17日 旭区子育てネットワーク「きしゃぽっぽ」定例会（区在）
（子育て支援マップ版下作成についての話し合い）

- 24日 脳血管障害当事者会「あさひの会」定例会（区在）
26日 草の根ネットワークねっこ定例会（区在）
29日 大阪社会福祉士会研修（城北市民学習センター）
「障害者の地域生活支援」研修の報告と演習
（旭区内の知的障害をもつ当事者を講師に招き、演習を行なった）

（編集後記）

- ☆ 「ほうぷ」にかかわりはじめて数ヶ月。参加できる時とできない時がありますが、会報を作っていると「こんなにもたくさんの方から感想をいただいたり、いろんな団体と連携させてもらったりしてるんだ」と実感します。パソコンに向かい五十肩にむちうっての作業ですが、楽しい時間でした。（N）
- ☆ 先日、「当事者の声を聴く」という研修会に参加しました。私たちは、相談業務をする中で、当事者やその周りの環境の情報収集することに焦点を置き、コミュニケーションではなく一方的な質問をしているのでは？当事者の「どうしたいか」という声に耳を傾けようとせずに、どんな制度が使えるかを頭に描いて質問をしているのでは？と強く感じました。今ある資源に当事者を当てはめるのではなく、当事者の発する声から資源を一緒に考えていけるような関わりを持っていきたい、そう改めて感じた研修会でした。（よ）